

U9-2023-

課題論文

試験問題

注意事項

- 問題は**2題**あります。**2題とも必ず解答**してください。
- 解答時間は**3時間**です。
- 答案用紙の記入について
 - 答案は濃くはっきり書き、書き損じた場合は、解答の内容がはっきり分かるように訂正してください。
 - 問題**1題に1枚**(両面)を使用してください。
 - 表側の各欄にそれぞれ必要事項を記入してください。**問題番号欄には、問題1は「1」、問題2は「2」と記入**してください。
 - 試験の公正を害するおそれがありますので、答案用紙の切取線より下の部分に氏名その他解答と関係のない事項を記載しないでください。
- この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
- 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
- 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	受験番号	氏名
--------	------	----

指示があるまで中を開いてはいけません。

途中で退室する場合………本試験種目終了後の問題集の持ち帰りを

希望しない

問題 1

人の尊厳や人格を傷つけるハラスメントには様々な種類があり、いずれも組織の生産性を下げたり、人材の損失につながったりするおそれがある。

組織内で発生するハラスメントのうち、あなたが特に問題視するハラスメントの種類を一つ挙げ、その防止対策及びハラスメント事案が生じた際の対応に関し、組織として講すべき措置と、職員個人がとるべき行動について、具体的に論じなさい。

問題 2

船舶を安全かつ効率的に運航するためには、航路標識を活用し、他船の動向及び自船の位置を常に確認しながら安全な進路へ導く必要がある。このため海上保安庁は、航路標識の点検や整備に努めて交通の安全を確保しており、消灯が即事故につながるような灯台などの重要な航路標識では、電源に自然エネルギーを活用したり、停電時も小型発電機や蓄電池などでバックアップする体制をとるなどしている。

ある年の10月1日(日)の夜、A海上保安部付近に集中豪雨があり、所管しているB岬灯台付近で大規模ながけ崩れが発生した。これにより、B岬灯台へと続く道路とB岬灯台に電力を供給していた送電線鉄塔が崩落し、同日21時にB岬灯台への送電が途絶した。関係機関によると、B岬灯台への送電再開まで10日、道路の復旧にはそれ以上の日数がかかる。

B岬灯台には予備電源として小型発電機が設置されており、消灯していないことも確認できたが、小型発電機に燃料の軽油を補給しなければいずれ停止し消灯するため、燃料補給をする必要がある。

なお、燃料補給はA海上保安部交通課の職員6名(表を参照)で公用車1台(定員4名)のみを使用して行い、他からの支援はないものとし、職員の勤務形態に応じた対応をする必要がある。

あなたがC課長であると仮定し、B岬灯台への送電再開を同年10月11日(水)21時としたとき、それまでの間の小型発電機への燃料補給について、下記条件を踏まえて計画を立て、その具体的な内容(何日の何時から何時にかけてどのメンバーで補給作業を行うのか)と理由について詳しく説明しなさい。

表：A海上保安部交通課の体制

職員名	年齢	勤務形態
C課長	50	週40時間 勤務可能
D	25	週40時間 勤務可能
E	60	週20時間 勤務可能
F	61	週20時間 勤務可能
G	63	週10時間 勤務可能
H	64	週10時間 勤務可能

〈条件〉

- ・ 小型発電機の燃料タンク容量は 160 L で、10月1日21時時点では 140 L 残っていたが、1日 40 L ずつ消費する。
- ・ A 海上保安部から崩落地点手前までは車で片道 1 時間かかる。そこから B 岬灯台まで山道が通じており、崩落地点手前から B 岬灯台まで往路・復路とも徒歩で 3 時間かかるものとする。小型発電機の燃料タンクへの給油作業にかかる時間は、考慮しなくてよい。
- ・ 山道には照明がなく、舗装もされていない。日の出は 6:00、日の入りは 17:30 であり、B 岬灯台内部に仮眠するところはない。
- ・ 燃料補給には軽油 20 L 入りプラスチック製タンク(重量 20 kg、以下「軽油タンク」という。)を使用する。A 海上保安部の燃料倉庫には軽油タンクが 8 缶保管されている。
- ・ 官用車には軽油タンク 8 缶全て積載可能であるが、山道では 1 缶ずつ職員が背負って運ぶ。燃料補給に使用して空になった軽油タンクには、業者が使用翌日の夕方に給油してくれる。

